小児用肺炎球菌ワクチンの接種スケジュール

接種回数は、小児用肺炎球菌ワクチンをはじめて接種する月齢/年齢によって異なります。かかりつけ医に相談して、早めにスケジュールを決めましょう。

標準的な接種開始年齢　生後2か月～6か月（7か月未満）

標準

生後
2～6か月
（7か月未満）

2～6か月齢　1回目 → 27日間以上の間隔 → 2回目 → 27日間以上の間隔 → 3回目（3回目までの接種は1歳未満に行う） → 60日間以上の間隔 → 4回目（12～15か月齢）

年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日

標準的なスケジュールで接種をしなかった場合

接種開始年齢とスケジュール

生後
7～11か月の場合
（12か月未満）

7～11か月齢　1回目 → 27日間以上の間隔 → 2回目 → 60日間以上の間隔 → 3回目（12か月齢後）

1歳の場合

1歳　1回目 → 60日間以上の間隔 → 2回目

2歳～9歳の場合

1回目

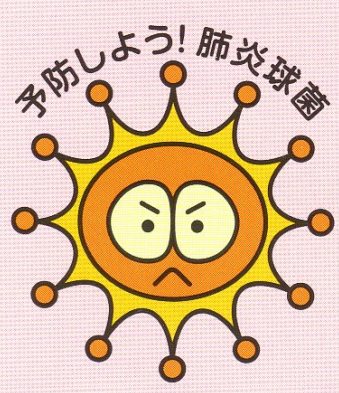
年　月　日	年　月　日	年　月　日

接種上の注意

図を参考に、接種回数、接種間隔を確認し、接種スケジュールを立てましょう。
ほかのワクチンとの同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。

PRV51A004C

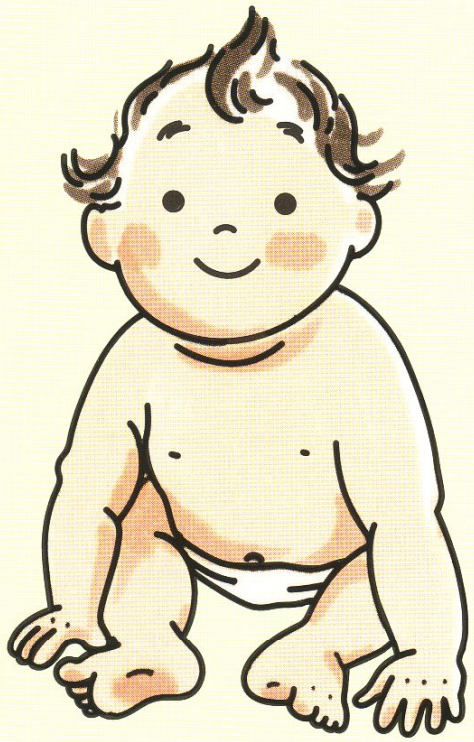
2010年11月作成



子どもの肺炎球菌ワクチン

Pfizer ファイザー

はじめまして。2010年春、
日本のワクチンに仲間入りです。



肺炎球菌は、赤ちゃんの命に関わる感染症の原因菌のひとつです。

ワクチンで、早めに予防しましょう!

監修:石和田 稔彦 先生(千葉大学医学部附属病院小児科)

肺炎球菌ってなに？ 感染するとどうなるの？

肺炎球菌は、多くの子どもの鼻やのどにいる、身近な菌です。ふだんはおとなしくしていますが、子どもの体力や抵抗力が落ちた時などに、いつもは菌がいないところに入り込んで、いろいろな病気（感染症）を引き起こします。

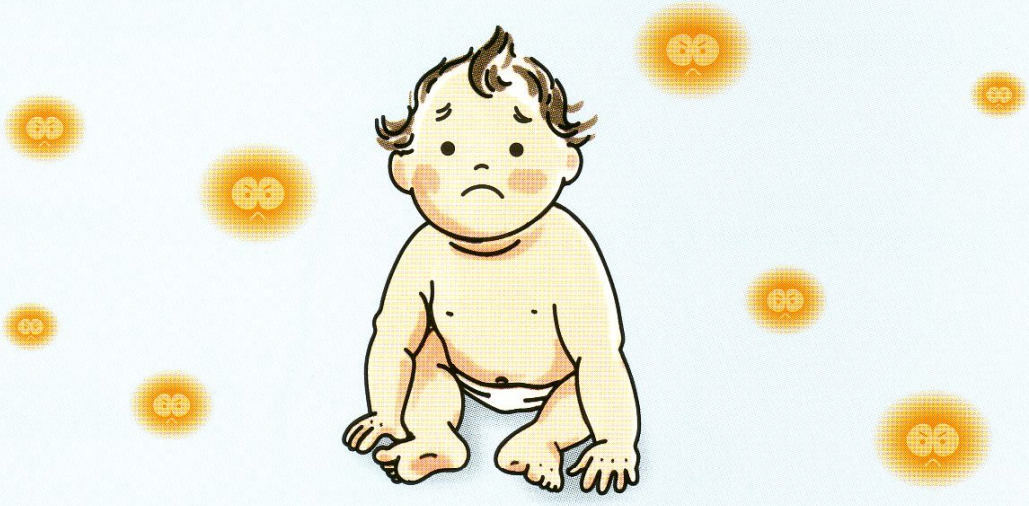
肺炎球菌（はいえんきゅうきん）が起こす病気

細菌性髄膜炎（さいきんせいずいまくえん）

脳や脊髄をおおっている髄膜に
菌が侵入して炎症を起こす。
日本では、毎年約200人の子どもが
肺炎球菌による髄膜炎にかかり、
うち1／3くらいが、命を奪われたり、
重い障害が残ったりしている。

菌血症（きんけつしょう）

血液の中に菌が入り込むこと。
放っておくと、血液中の菌が
いろいろな臓器にうつり、
髄膜炎など重い病気を
引き起こす心配がある。



肺炎（はいえん）

肺炎球菌という名の通り、
肺炎の原因になる。
症状が重く、
入院が必要になることもある。

中耳炎（ちゅうじえん）

カゼなどで抵抗力が落ちた時に、
耳の奥に感染し、炎症を起こす。
肺炎球菌が原因の中耳炎は、
何度も繰り返し、
治りにくいことがある。

このほかにも、副鼻腔炎、骨髄炎、関節炎なども肺炎球菌によって起こります。

肺炎球菌について詳しくはこちら　http://www.haienkyukin.jp

小児用肺炎球菌ワクチンってどんなもの？

細菌性髄膜炎など、肺炎球菌による重い感染症を予防する、
子ども用のワクチンです。

予防できる病気

肺炎球菌による髄膜炎や菌血症、菌血症を伴う肺炎など。
これらの病気を予防するために接種します。
2000年から定期接種にしているアメリカでは、ワクチンで
予防できる肺炎球菌による重い感染症が98%減りました。

接種する時期

生後２か月以上から９歳以下まで接種できます。
肺炎球菌による髄膜炎は約半数が０歳代でかかり、
それ以降は年齢とともに少なくなりますが、
５歳くらいまでは危険年齢です（５歳を過ぎての発症もあります）。
２か月になったらなるべく早く接種しましょう。

世界での接種

10年前に発売されて以来、世界中の子どもたちに
接種されています。
現在、世界の約100か国で接種され、
うち45か国では定期接種されています。

副反応

ワクチンを接種した後に、発熱や接種部分の腫れなどの
副反応が起こる頻度は、ほかのワクチンと同じ程度です。
この他にも気になることがあれば、かかりつけ医にご相談ください。

小児用肺炎球菌ワクチンの接種スケジュール

接種回数は、小児用肺炎球菌ワクチンをはじめて接種する月齢/年齢によって異なります。かかりつけ医に相談して、早めにスケジュールを決めましょう。

標準的な接種開始年齢　生後2か月～6か月（7か月未満）

標準

生後
2～6か月
（7か月未満）

2～6か月齢　1回目 → 27日間以上の間隔 → 2回目 → 27日間以上の間隔 → 3回目（3回目までの接種は1歳未満に行う） → 60日間以上の間隔 → 4回目（12～15か月齢）

年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日

標準的なスケジュールで接種をしなかった場合

接種開始年齢とスケジュール

生後
7～11か月の場合
（12か月未満）

7～11か月齢　1回目 → 27日間以上の間隔 → 2回目 → 60日間以上の間隔 → 3回目（12か月齢後）

1歳の場合

1歳　1回目 → 60日間以上の間隔 → 2回目

2歳～9歳の場合

1回目

年　月　日	年　月　日	年　月　日

接種上の注意

図を参考に、接種回数、接種間隔を確認し、接種スケジュールを立てましょう。
ほかのワクチンとの同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。

PRV51A004C

2010年11月作成